





TELEFUNKEN

History & Origin of TELEFUNKEN

TELEFUNKENは1903年、シーメンスとAEGが合併して設立されました。シーメンスはドイツ軍に、AEGはドイツ海軍にそれぞれ無線通信の開発を行なっていましたが、特許に関する問題を解消するためにドイツ皇帝カイザー・ヴィルヘルム2世が互いに協力するよう促し、合併会社TELEFUNKENが誕生しました。TELEFUNKENのTELEは「距離」を意味するラテン語から、FUNKENは「火花」を意味するドイツ語からつけられました。

TELEFUNKENは1900年代を通じて無線通信、テレビ、ビデオカメラ、真空管、プリアンプ、マイクなど数多くの分野で世界のテクノロジー産業をリードしてきました。そして1947年、TELEFUNKENは世界的な名機となるマイクロフォン、U47の販売を開始しました。U47はマイクの指向性が切り替え可能(カーディオイドとオムニ)な世界初のコンデンサーマイクで、リボンマイクがレコーディングスタジオのスタンダードとなっていたアメリカでは非常にポピュラーな存在となりました。U47の音の再現力・細かな作り込みのおかげで使用するレコーディングスタジオはどこも高水準の音をレコーディングすることができました。

U47のデザイナー、Georg Neumann氏がTELEFUNKENとの販売契約を更新しないと決定した際、U47は販売から除外されました。TELEFUNKENはU47に変わるマイクロフォンシリーズを開発するためにAKGと契約しました。これを機に、のちに伝説となるELA M251が誕生することになります。

このデザインは製造段階にあったAKGのC12から生まれ、CK12カプセルがデザインの元となります。そして1959年、ELA M250/251が世界に発表されました。1959年から1962年までの短い生産期間でしたが、ELA M251のサウンドは史上最高のマイクサウンドの1つと考えられています。

これまでに数多くのマイクロフォンがTELEFUNKENから販売されましたが、レコーディング業界においていまだにELA M251とU47が最高のマイクだと謳われています。マイクとあわせて、TELEFUNKENの真空管についても品質の高さで非常に評価が高く、今日においても非常に多くのレコーディングスタジオで使用されています。

その後TELEFUNKENは会社と所有権の変更を繰り返した末、1985年に生産および新規開発を中止しました。そしてELA M251が生産されなかった40年の間に、最高級のマイクの1つとして伝説的な地位を獲得しました。少ない生産量とマイクそのものの脆弱性が重なり、状態の良い個体がますます希少となり価値がより高いものとなりました。ウォール・ストリートジャーナルでもELA M251は1900年代における最高のプロダクションの1つだと記事で紹介されました。

他のヴィンテージ電子機器と同じく、これらのオリジナルユニットでは部品の故障が起こり始め使用ができなくなります。このマイクの必要性、可能性を見てTELEFUNKENはTELEFUNKEN Elektroakustikとして2000年に再生を果たすのでした。

TELEFUNKEN Elektroakustik

アメリカはコネチカット州、サウスウィンザーにあるTELEFUNKEN Elektroakustikは100年以上前に設立されたTELEFUNKENによって培われた卓越性と革新の伝統を受け継いできました。TELEFUNKEN Elektroakustikは、所有者であるToni Fishman氏が北米で使用するための名前とダイヤモンドのロゴの権利を取得した2000年に始まりました。そこでTELEFUNKEN ElektroakustikはELA M251のポーラパターンセレクターについての分析から始めました。Fishman氏は自身のレコーディングスタジオで使用するためにオリジナルのELA M251を購入しましたがそのELA M251のポーラパターンスイッチが機能していませんでした。これが元ユニットではよくある問題であることを認識して、それを再現するというアイデアが生まれました。スイッチは分析・解析され、同じ問題を抱えるELA M251ユーザーのために当時の製造されたマイクと同じクオリティで復刻することを目指しました。次の2年間はマイクの様々な部分を細部まで徹底的に開発するために費やしました。TELEFUNKENとAKGから多数のオリジナル文書・設計図を取得、そして徹底的なリバースエンジニアリングによりELA M251はオリジナルとなんら遜色のないクオリティで復刻を果たすのでした。

コネチカット州サウスウィンザーのTELEFUNKENは2002年のAudio Engineering Societyコンベンションで初めて復活したELA M251を紹介しました。この新しく製造されたリイシューのオリジナル再現度の精度はオーディオ業界に衝撃を与えました。そしてこのELA M251はStudio Microphone Technologyで2003年のTEC賞を受賞しました。

その後も勢いは衰えることなく、TELEFUNKENは同じリバースエンジニアリングを利用、当時と同じ厳しい管理・基準のもとU47とC12の再現とリリースに成功するのです。ELA M251の伝統に倣い、ダイヤモンドシリーズマイクの全てのパーツはコネチカット州、ニューイングランド州で機械加工されます。全てのマイクは1から組み立てられ、出荷前にTELEFUNKENラボにて検査が行われます。



M80

Dynamic Microphone



Green Day with M80WH wireless head

The World Standard

M80はダイナミックマイクでありながらコンデンサーマイク並のパフォーマンスを持ち、これまで国内外の様々なジャンルのアーティスト達の支持を得続けてきました。

単一指向性でワイドなダイナミックレンジ及び周波数特性を誇り、ハンドリングノイズを抑えるボディ設計とオープンでワイドなダイアフラムの音色によって、バンドやミックスの中でも埋もれることなく存在感のあるサウンドを提供します。



ボディとグリルのカラーを指定してカスタムオーダーすることができます

 M80 Custom Shop

M81

Dynamic
Microphone

M81はM80の長所を引き継ぎつつも近接効果やフィードバックを最低限まで抑え音声信号のコアとなる帯域を正確に再現するダイナミック・マイクロフォンです。厚みがある膨よかで明瞭度の高いサウンドを特徴としているので、パーカッションやホーンと優れた相性を示し、細くか弱いソースに膨らみを持たせて豊かな表情を加えることができます。

M80-SH M80 Short Head

M81-SH M81 Short Head

M80-WH M80 Wireless Head

Shure規格ワイヤレスマイク用

M81-WH M81 Wireless Head

Shure規格ワイヤレスマイク用

M82

Dynamic
Microphone

M82はキックドラムに最適なラージダイアフラム・ダイナミックマイクロフォンです。パッシブフィルタを使用して350Hzを中心とした低中域周波数の一部をカットするキックEQスイッチと、2~10kHzのアップーミッドレンジと高い周波数帯を6dBブーストするハイブーストスイッチを搭載しています。キックだけでなくボーカル、パーカッション、音声、ギター及びベースアンプ、オルガン、金管楽器にもマッチします。

TELEFUNKEN Microphones Drum Pack

Alchemy Series

TELEFUNKEN NEW Alchemy Series Microphones



TF-29

TF-39

TF-47

TF-51

アメリカのコネチカット州で設計、手作業による製造、厳しい品質基準でテストされたアルケミーシリーズは、TELEFUNKEN Elektroakustikの次世代大型ダイアフラムチューブコンデンサーマイクです。この新しいマイクはゼロから開発された独自の音響プロファイルを備えています。ヴィンテージとモダンの要素を組み合わせたこのアルケミーシリーズは独創的な音を届けてくれます。アルケミーシリーズは過去モデルであるR-F-Tシリーズ(CU-29 Copperhead、AR-51、AK-47 MkII)を進化・改良したもので、10年以上にもわたるマイク的设计、製造のノウハウが詰め込まれています。

TELEFUNKEN Elektroakustikはこのアルケミーシリーズに幾多の改良を施し付属品にいたるまで徹底的にこだわり調整を重ねてきました。透明感のあるワイドレンジな音を得るために新しく設計されたカスタムヘッドグリルをもつハンドプラグ回路基盤は、無駄のない基盤レイアウトを採用(特にハイインピーダンス用)、そして厳選されたアメリカとヨーロッパの真空管とトランスをチョイスすることによってより良いサウンドを獲得しました。

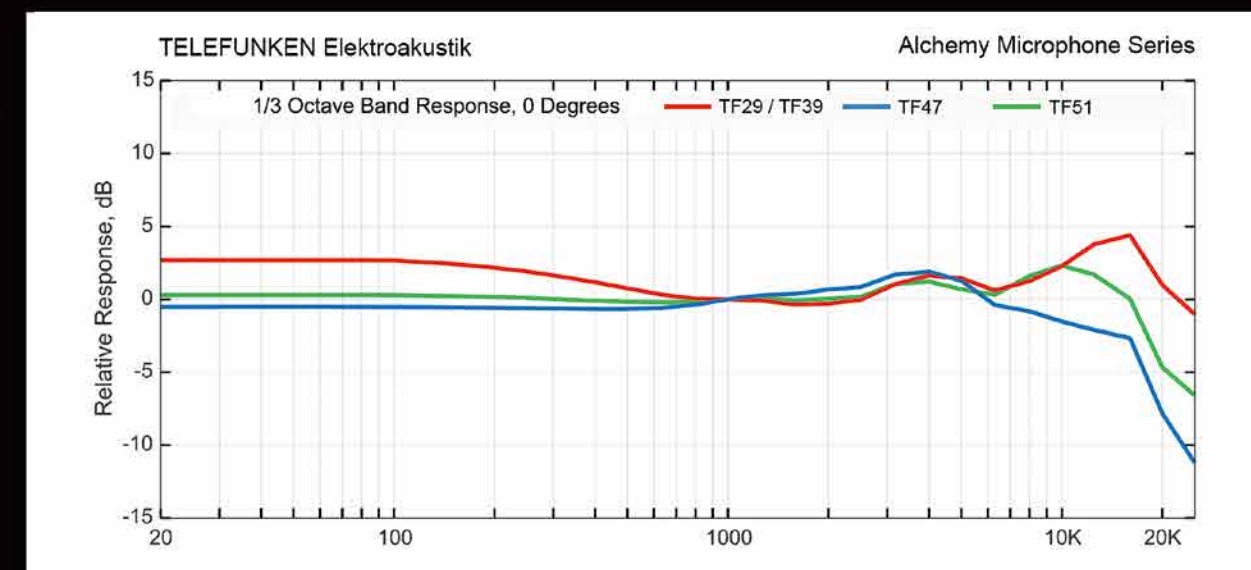
他のTELEFUNKENマイク製品と同様、アルケミーシリーズもダイヤモンドシリーズと同じアメリカにある施設内の技術者によって組み立てられています。マイクは個別にテストが行われ、カプセル周波数掃引、真空管の品質検査、ノイズグレーディングなど重要な部品は全て組み立て前に社内で品質管理を施しマイクの高い耐久性を実現します。ここまで厳しい品質管理を行っているところはなかなかありません。

TF29 Copperheadは、アメリカ製の新しい5654W真空管、オールガラスのK67カプセル、そしてスウェーデン製の高級Lundahl出力トランスを備えています。

TF39 Copperhead DeluxeはCU29の上位版の位置付けとなるマイクロフォンです。デュアルメンブレンK67スタイルのカプセルを追加してCopperheadサウンドを拡張させ、カーディオイド、オムニ、フィギュア8の3パターンから指向性の選択が可能です。

TF47はU47とM49からインスピレーションを受けた「ドイツの音」に基づく新しいデザインです。TF47の中心になるのはオールガラスのK47スタイルのカプセル、NOSストック5840Wの真空管、そしてU47でも使用されていたカスタムメイドのBV8トランスです。

TF51は、TELEFUNKEN ELA M251EとC12に関連した「オーストリアの音」を新たに取り入れたものです。ELA M251、C12にも採用された6072A真空管は、歴史的なCK12と同様のエッジターミネイトスタイルのカプセルと組み合わせられています。出力トランスはオリジナルTELEFUNKENパーツの供給元であるドイツ製のカスタムHaufeトランスです。



M60

FET Master Set



Cardioid



Omni



Hypercardioid

1年半以上の開発と熟練のレコーディング・エンジニアによるテストを経て、TELEFUNKEN Elektroakustik社初となるノンチューブ・FETデザインのソリッドステート・コンデンサーマイクロフォン“M60 FET”は完成しました。TECアワード受賞歴を誇るスモール・ダイアフラム型チューブマイクロフォン“ELA M 260”と同様のTK6Xカプセル・システムをM60 FETは採用しています。

TK60：周波数特性は150Hzから7kHzにわたりフラットで8kHzにスムーズで歯切れの良いピークを持ちます。オーバーヘッドやハイハット、ライドなどのドラム・マイキングの他にもピアノ、ギターなどアコースティック楽器に最適です。

TK61：直径15mm/厚さ6ミクロンの無指向性カプセル。楽器のアンビエンスや空気感、あるいはルーム、ホール全体の集音に最適な開放的で余裕のあるサウンドです。20Hzから5kHzはフラットな特性で、TK60同様に8kHzに滑らかで歯切れの良いピークを持ちます。

TK62：狭角に絞ったポーラー・パターンの超単一指向性カプセル。ライブ・ステージ、レコーディング・ルームなど環境を問わずシンバルやパーカッションのステレオ・マイキングに多大な力を発揮します。150Hzから3kHzはフラット、6kHzに微かなディップを持ち8kHzにエアリーで鮮やかなピークがあります。

TELEFUNKEN Direct Boxes



プレミアム・クオリティのコンポーネントと頑丈な構造を兼ね備えるリッチでウォームなサウンドを実現した新しいデザインのD.I.

TDP-1 / TDP-2
Passive D.I.TDA-1 / TDA-2
Active D.I.



ELA M 251E

複数のオリジナル251よりリバース・エンジニアリングを行い、不足パーツはオリジナルブループリントから部品を再生産し、3年に渡る情報収集と開発期間を経て、クラシックマイクロフォンTELEFUNKEN ELA M 251を忠実に再現しました。
ELA M 251Eには6072a真空管が使用されています。

U47

オリジナルU47はその1946年の製造開始よりレコーディング・プロフェッショナル達のファースト・チョイスでした。TELEFUNKEN Elektroakustik は M7 カプセル、Telefunken VF14K 真空管を使用し、トランスもオリジナルを完全に再現し、あの時代の音をそのまま再現することに成功しました。

George Martin のお気に入りマイクロフォンとしてBeatles のレコーディングで多用された Figure8 指向性を持つU48 も同時にラインアップしています。

